

【書く・なぞる】俳句 松尾芭蕉 一

古池や 蛙飛びこむ 水の音

夏草や 兵どもが 夢の跡

荒海や 佐渡に横たふ 天の川

五月雨を 集めて早し 最上川

閑さや 岩にしみ入る 蟬の声

【書く・なぞる】俳句 松尾芭蕉 二

旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る

初しぐれ 猿も小蓑を ほしげ也

冬枯れや 鴨の足引く 氷の上

秋深き 隣は何を する人ぞ

菜の花や 月は東に 日は西に

【書く・なぞる】俳句 松尾芭蕉 三

蛤の ふたみに別れ 行く秋ぞ

名月や 池をめぐりて 夜もすがら

桜咲く 木の間を移る 影法師

古道具 酒はおおらか 草の庵

秋涼し 手毎におきて 通草の実

【書く・なぞる】俳句 松尾芭蕉 四

萤火や 小束の藻草 舟の跡

我が名をば 秋風の吹く 時雨かな

梅が香に のつと日の出る 山路かな

閑かさや 椿落ちたり 石の上

木枯しや 目に見えぬ海 波の音